富山大学附属病院　歯科口腔外科に
通院中または過去に通院・入院された患者様またはご家族の方へ
当科における臨床研究にご協力をお願いいたします。

2025 年 6 月 2 日

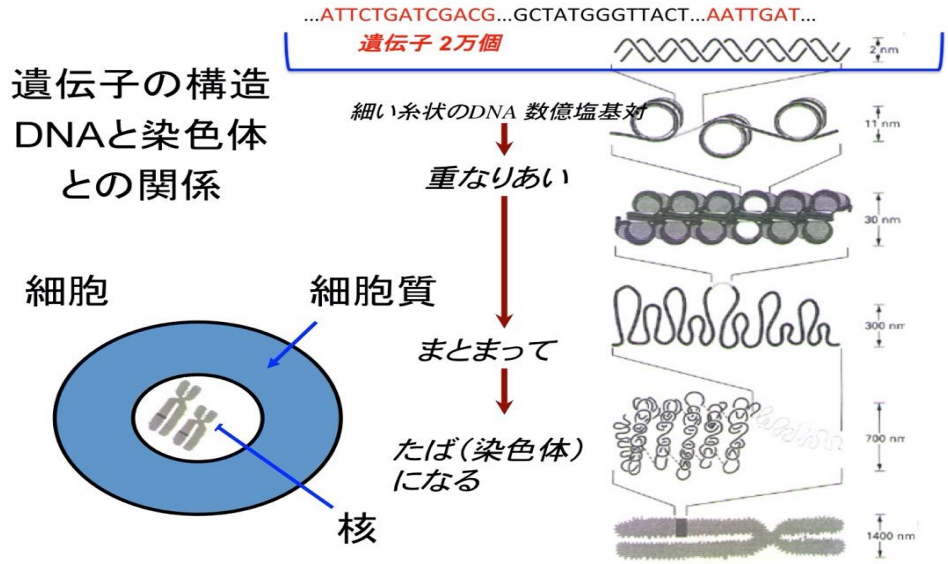
「次世代シーケンサーによる硬化性歯原性癌の遺伝子解析」に関する臨床研究を実施しています。

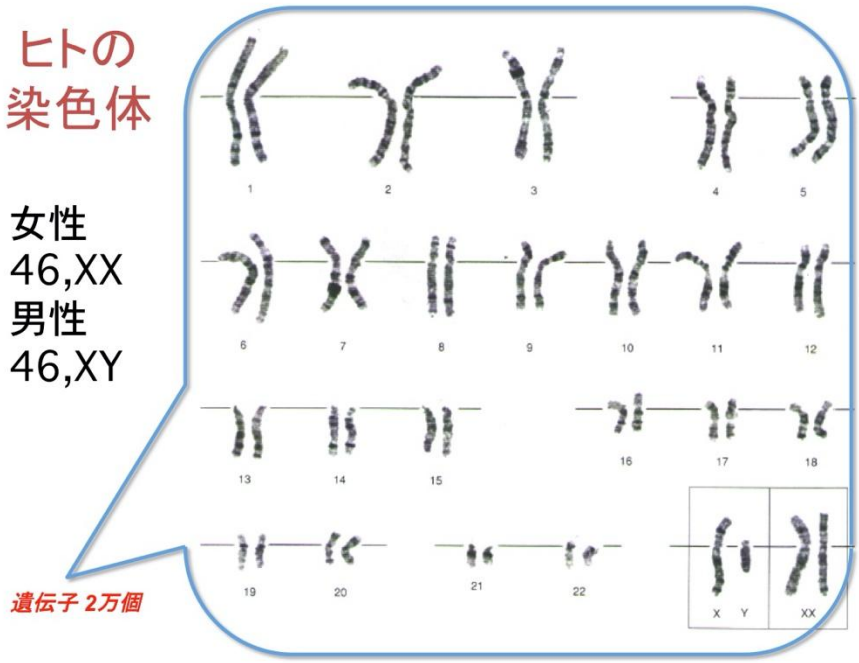
信州大学医学部倫理委員会承認を受け、医学部長の許可を得て実施しています。この研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされています。

倫理審査承認番号	6386
研究課題名	次世代シーケンサーによる硬化性歯原性癌の遺伝子解析
所属(診療科等)	歯科口腔外科
研究責任者(職名)	氏名(職名):栗田浩(信州大学特殊歯科口腔外科　教授)
研究実施期間	研究機関の長による許可日～2030 年 1 月 1 日
研究の意義、目的	硬化性歯原性癌の原因遺伝子を明らかにすることを目的とした研究で、病因の究明に貢献すると考えられます。
対象となる方	2022 年 1 月 1 日～2026 年 9 月 14 日の期間に共同研究機関で硬化性歯原性癌について医療を受けられた方
利用する診療記録(利用する場合のみ)／検体	診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果／組織
他機関から試料・情報の提供を受ける方法	記録媒体、郵送により提供を受けます
研究方法	過去の手術の残余組織を利用して遺伝子解析を行い、比較することで原因遺伝子の究明を行います。
共同研究機関名 (研究責任者氏名)	信州大学(責任者:栗田　浩)、長野赤十字病院(責任者:佐藤　碧)、富山大学附属病院歯科口腔外科(責任者:山田　慎一)
研究代表者	主任施設の名称:信州大学 研究責任者:栗田浩
問い合わせ先	氏名(所属・職名):登内　恒介 電話:0263-37-2677

＜遺伝子とは＞

体の設計図の原本は「DNA」です。DNA は、A、T、C、G という 4 つの化学物質（塩基）が数十億連なった糸です。全ての塩基配列が重要ではなく、所々に特に大切な配列があります。これを「遺伝子」と呼び、ヒトでは約 2 万個あります。1 つの遺伝子も数十塩基からなる小さいものもあれば、数千塩基からなる大きいものもあります。DNA は、タンパク質に巻き付いたり、それがきつくまとまったり、折りたたまれたりして、束（たば）になって存在しています。これを「染色体」と呼び、ヒトでは男女共通の常染色体（1～22 番が 1 対 2 本ずつ 44 本）と男女で違う性染色体（男性は通常 XY、女性は通常 XX の 2 本）合わせて 46 本あります。この染色体は全ての細胞の核の中に入っており、細胞が集まって臓器になり、そして個体であるヒトができます。





＜遺伝子と病気＞

染色体の微細構造や塩基配列は、ヒトそれぞれにわずかな違いがあります。その多くは病気や健康状態とは関係のない染色体微細構造や塩基配列上の「個性」ですが、時にその違いが病気の発症や健康状態に関連している場合があります。

遺伝性・先天性の疾患や障害は決してまれなことではなく、どのカップルからも 3～5%以上の確率で生まれてきます。例えば先天性心疾患は 1/100 人、染色体異常症 1/250 人、高度難聴は 1/1000 人、口唇口蓋裂は 1/600～700 人などです。このなかには、環境因子の影響が大きいものもありますが、環境因子と設計図要因の相互作用によるもの、また主として設計図要因によるもの（染色体の数的または構造上の変化、遺伝子の塩基配列や構造の変化など）もあります。

本研究では【既存の検体や診療記録、検査結果】を研究、調査、集計しますので、【新たな診察や検査、検体の採取】の必要はありません。

患者様を直接特定できる個人情報を削除した上で提供された試料・情報等を利用します。

研究成果は今後の医学の発展に役立つように学会や学術雑誌などで発表しますが、その際も患者様を特定できる個人情報は利用しません。

この研究にご自分の診療記録等を利用することをご了解いただけない場合、またご不明な点については、上記問い合わせ先までご連絡くださいますようお願いいたします。

研究不参加を申し出られた場合でも、なんら不利益を受けることはありません。ただし、同意取り消しの申し出をいただいたとき、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合や、試料や情報が匿名化されて個人が全く特定できない場合などには、結果を廃棄できないこともあり、引き続き使わせていただくことがあります。